

女性の高学歴化は未だ政治参画に繋がらず～スリランカの場合～

ティリニ・ウィジェトウンガ（スリランカ）

最近スリランカでは、次の地方選挙を前に、全ての政党から出馬する候補者のうち女性候補者の比率を 25%とするクォータ制を定めた、新たな法案が可決されました。現状では、スリランカにおける女性議員の割合は極めて低いため、多くの人がこの動きを称賛しています。スリランカでは、1931年に女性が選挙権を得ており、さらに1960年には世界初の女性首相が誕生しました。しかしながら、現在国会議員に占める女性の割合は5.8%、地方議会議員では2%に留まっており、これは南アジアにおいて最も低い水準です。

スリランカでは、女性の人口が全体の52%を占めており、学業成績も男性と同水準にあります。このことを考えても、女性の政治参画はもっと進んでいけるべきです。しかしこれまでの殆どのケースでは、もし政界に縁故がなければ、女性が政治の世界に進出することはなかったと言えます。現職の女性国会議員11名のうち、9名が元政治家の妻や娘、あるいは姉妹です。このように血縁・姻戚関係という後ろ盾がなければ、女性は政界進出に前向きになることができません。そして、その背景には様々な理由が存在します。



シリマヴォ・バンドラナイケ氏
(第4代セイロン(現スリランカ)首相
ソロモン・ウェスト・リッジウェイ・
ディアス・バンドラナイケ氏の妻)



チャンドリカ・バンドラナイケ・
クマーラトゥンガ氏
(両親ともに元首相であり、夫は元政治家の
ヴィジャヤ・クマーラトゥンガ氏)

母と娘：南アジア初の女性首相とスリランカ初の女性大統領

女性の政治参画を阻む主な障害として、イデオロギー的・文化的要因が挙げられます。スリランカの社会では、家父長制的価値観がまだまだ根強く残っており、女性による政治への関与が極めて低い状態です。男性はリーダーであるのに対し、女性の役割は家族の世話をすることだという概念が浸透しているのです。このようなジェンダー・ステレオタイプが原因で、女性は家庭に関する全てのことを引き受けることを余儀なくされ、男性はそれが当然であるかのように政治活動に専念できる、という構図が出来上がっています。また、今日の政治の世界では誹謗中傷や汚職が蔓延しており、政治は「汚いゲーム」だという認識が一般化しています。そして何よりも、女性は妊娠、出産、育児という役割を果たすために政治に携わる時間的余裕はないだろう、という意識を多くの人が抱いています。

さらに、女性の政界進出を妨げている政治的・経済的理由も存在します。各政党は、表向きは女性の政治参画を支持していますが、女性候補者の当選を不安視しているため、実際は党の候補者として指名することに二の足を踏んでいるのです。現状では、候補者は選挙戦を勝ち抜くために、多額の資金をつぎ込んでいます。この選挙資金の調達・利用に関して、男女間に広く格差が存在する

ため、女性は経済的に不利な立場に置かれています。加えて、女性の政治手腕の不足が、政界への進出をさらに妨げています。

スリランカには高学歴の女性が多数存在しますが、主に上記のような理由から、政治分野に関心を抱いていません。また農村部では、多くの女性が婦人会に加入していますが、これは自ら起業するための融資やその他の経済的支援を受けることを主な目的としています。また、このような婦人会の活動を通じてリーダーとして頭角を現す女性は、ほんの一握りに過ぎません。

さらに、この問題には別の側面もあります。それは、現在政界で活動する女性リーダーが、十分に役目を果たしているのかという点について、人々が疑念を抱いているということです。なぜなら、国会に女性議員を送り込んだからといって、政策決定に際してジェンダーの視点を適用する「ジェンダー主流化」が、効果的に進んでいるとは言えないからです。女性議員たちは、政府機関や政策決定プロセスにおいて蔓延している男性優位の政治を根絶するために、十分な努力をしていないように思われます。長年にわたる性差別の存在を大きく揺るがすに足るほど、女性議員たちは声を上げきれていないのかもしれない。

しかしながら、クォータ制の導入は、政策決定に際して女性の参加を促進する上で、勇気づけられる動きです。このような強制的な割り当て制度を導入することで、少なくとも政治分野における女性の存在感が目に見える形で高まります。それを足掛かりとして、偏見の壁を打ち破っていくことが期待されます。女性の存在が大きくなれば、男性に有利な条件で戦わなくてもよくなります。ただし、クォータ制を導入するだけでは、政治における女性のエンパワーメントには繋がりません。より多くの女性が政治参画を目指そうという気になるよう、支援の仕組みづくりや環境の改善を行う必要があります。



女性の政治意識向上のためのワークショップ



政治分野における女性の参画

さらに、女性は男性ほどのネットワークを持たない場合も多いため、選挙資金に関する支援が必要です。この他にも、能力開発、演説スキルの向上、出馬意欲を引き出すためのイベントの開催などが、女性の政治参画を推進する上で不可欠です。また、女性が政治に携わるための能力の強化も必須となります。しかし本当のところ、この国のために力を尽くす覚悟で政治の世界に身を投じようとする女性候補者に対して求められている重要な資質は、思いやりや誠実さに溢れ、道義や倫理原則を守るといった人間性なのです。